

平成 30 年度 第 3 回 松田町総合計画審議会 議事録

日 時：平成 30 年 10 月 3 日(水) 午前 10 時から 12 時 00 分

場 所：松田町役場 4 階 大会議室

出席者：13 名

吉田委員、安藤委員、辻村委員、山岸委員、吉崎委員、鍵和田委員、秋田谷委員、古舘委員、菅谷委員、吉川委員、小池委員、竹森委員、足立委員（名簿順）

町 長：田代副町長、吉田教育長、渋谷議会事務局長、鈴木政策推進課長、小田総務課長、工藤税務課長、太田参事兼町民課長、川本子育て健康課長、竹内福祉課長、石井参事兼観光経済課長、依田環境上下水道課長、高橋まちづくり課長、椎野会計管理者兼出納室長、遠藤教育課長

事務局：政策推進課（柳澤、輿石）、ランドブレイン（石村、稲葉）

傍聴者：3 名

会次第

1. 会長あいさつ
2. 議事録署名人の選出
3. 議事
 - (1) 第 2 回審議会の振り返り【資料 1】
 - (2) 団体ヒアリング結果について【資料 2】
 - (3) 中学生アンケート及びワークショップ結果について【資料 3】
 - (4) 基本構想 素案について【資料 4】
 - (5) 基本計画 素案について【資料 4】
4. その他

質疑記録

■議事（1）第 2 回審議会の振り返りについて

特になし

■議事（2）団体ヒアリング結果について

会 長：

合計 62 団体から、さまざまな意見をいただいている。具体的には今後のアクションプログラムに反映するとのことで、ぜひ専門的な視点からみていただきたい。何か意見はあるか。

委 員：

A3 の結果一覧に小田急電鉄秦野駅からの回答があるが、新松田駅からはないのか。また、利用者からの意見としてロマンスカーが新松田駅に停車しなくなるという点については記載がないのはなぜか。

事務局：

小田急の管轄としては新松田駅単独の駅長ではなく秦野駅が管轄しているため、記載上、秦野駅となっている。また、このヒアリングは鉄道事業者として松田町のまちづくりに対しての考えを聞くものであり、ロマンスカーの停車については町としても要望を出しているが、その回答を求めるといったものではないためこのような内容となっている。

委員：

エネルギーに関して、「足柄エネルギーまちづくり公社」と記載があるが、まだ公社自体はできていない。今後どのようになるのか教えてほしい。

環境上下水道課長：

寄地区の豊富な森林資源を活用するプロジェクトであり、木材を利用したエネルギー、地域おこしについて事業導入を検討中である。事業化の目処が立った段階で公社を設立し運営していきたいという意向は持っているが、これから調査を実施し、慎重に進めていきたいと考えている。

会長：

私は個人的にバイオマスの活用に興味があり、先日立ち上がった協議会に委員として参加している。そちらはまだ進み始めたところである。

そのほか、特になければ次の議題に進みたい。

■議事（3）中学生アンケート及びワークショップ結果について

会長：

意見や感想など何かあるか。PTA 関係の方から何かあれば。

委員：

自分の子どもがちょうどワークショップに参加した。結構真剣に取り組んだようで、中学生にとって町についてこの様に深く考える、良い機会をいただいたと思う。

会長：

アンケートで住みやすいという意見が多いものの将来も住み続けたいは2割弱というところが課題である。

委員：

他の町に住んだことがない子がほとんどのためある意味しょうがない。「松田町を県のひとつにする」という意見があるがこれは市町村合併を考えているのだろうか。

委員：

「松田県」という意味合いではないか。

会長：

それでは、この結果についてもアクションプログラムにとりいれることがあれば反映するというところでよろしくお願ひしたい。次の議題に移りたい。

■議事（４）基本構想 素案について

会 長：

それでは、基本構想についてご意見をお願いしたい。

前回の会議を踏まえ修正されているが、37 ページの2行目の将来像の文言が前回のままなので訂正願いたい。

委 員：

人口フレームについてはほぼ予測どおり進んでいるのだろうが、もっと危機感を持ってほしい。国の推計によれば2040年に7千人である。その場合町がどのような状況、危機になるのかシミュレーションしているのか。

事務局：

今後策定する実施計画では人口の見込みに応じた財政のシミュレーションを行う。細かい数値はまだ出せないが今後示していこうと思う。

委 員：

2040年の目標が1万人という設定はおかしい。松田町の人口ピーク時には1万3千人が住んでいた。町にはその規模のキャパシティがある。隣の開成町は日本一の人口増加率を遂げている。交通の便がよい、富士山が見える、自然環境がよいなどの好条件があるのに、1万人という目標では少ない。もっと攻めの政策が必要なのでは。

先月の広報まつだに子育て世帯向けの住宅の話が出ていたが、子育て中の住民を町内から募るのではなく、他の町から移り住んでもらうことが重要ではないか。町内の民間賃貸から公営住宅に移動させるといことになると民業圧迫にあたるのではないか。

委 員：

28～29 ページのSDGsについて、ここの開発目標と17のゴールは、世界の開発計画に基づく2030年のゴールである。一方、松田町としては2026年がゴールであり、到達地点を勘違いしないようにしたい。このSDGsの考えを町民に浸透させるのは時間がかかる。国連の考えを示すのはいいが、町としてはこれを踏まえどうするかをもう少し丁寧にし、表現を工夫すべき。

会 長：

事務局としてSDGsを入れたいという意向はわかるが、町民に対してはもう少しわかりやすく工夫してほしい。

事務局：

丁寧に説明を、というのはご指摘のとおりである。29 ページには世界レベルのものであるという但し書きはしているが、41 ページ以降の基本計画で松田版としてのSDGsのゴールを示していきたい。

委 員：

横浜市や鎌倉市などが先進未来都市として選定を受けたのは承知している。松田町としても国の予算を引き出すためにこうした取組みが必要なことはわかるが、町民に対してわかるように説明していく必要がある。

会 長：

先ほどの将来フレームについて、目標値の設定は非常に難しく、36 ページに掲げられている施策も実現は難しい印象がある。しかし、個人的には1万人は維持したいとの思いがある。

秋田谷委員

川ひとつ挟んだ隣町にいい見本があるので、ここは1万3千人を目指すくらいの意気込みがほしい。

委 員：

将来像については前回より格段によくなったと思うが、「笑顔あふれる幸福のまち 松田」を「しあわせのまち」と読ませるのであれば「幸せ」という表記の方がよい。

事務局：

そのように対処したい。

会 長：

前回の素案と比べると、今回は積極的な姿勢が見られる。皆さん他にご意見あればお願いしたい。

副会長：

字面については他にもいろいろ出てくると思うので、あとで対応すればよいと思う。

将来人口について、松田町は昭和30年に8千人の松田と2千人の寄が合併して1万人になった。その後、平成7年に人口のピークを迎えたが、何が良くてその時ピークに達したのか、そこまで何年かかったのか、そこをもう少し掘り下げて議論すれば、どうしてこんなにマイナスになるのかも見えてくると思う。

会 長：

今の点について簡単に説明できる方はいないか。

事務局：

地域別の人口ピークは松田地域が平成2年の10,823人、寄地域が平成12年の2,807人で、全体では平成7年に1万3千人を超えており、それは寄地域の人口が開発により大きく増加していた時期にあたる。その寄地域の人口が、今では最も激しく減少している。駅周辺を含めた松田地域の空洞化が少し早かったのは、昔ながらの狭い街並みの中で新たな住宅の高層化が進まなかった要因がある。一方で寄地域はバブル期に手頃な価格で土地を入手できたことも増加が継続した要因かと思う。

開成町でも危機感を持っている。子育て世代の母親たちからは、地域のコミュニティが薄れているという声もある。今はピーク時の松田町のように土地も資金もあって民間がマンションを建てているが、5年後はどうなるかわからない。

最近の町の人口傾向としては、微増・微減が続いている。平成25年度からの転入転出者データでは、単身および子育て世代の移動が特に多い。子どもと出産年齢人口が減っているというデータもある。アンケートでは転出の理由として交通の利便性や仕事の現状などが多い。

松田町では世帯数は増えているが、二世帯、三世帯の家族が減少している。土地が限られている条件の中で、まずは「松田に戻りたい」というイメージを作ることを重視し、空いている土地

には子育て世代を優先的に誘致していこうという事業を展開している。

様々な分析を行い、土地を有効活用し、富士山などの地域資源を活かし、子どもを産み育てるための取組みを進め、目標人口1万人ということをまず目指したい。社会減をいかに抑えていくかが大事。みなさんからのアイデアをいただきながらアクションプログラムに展開していきたい。

なお、町営住宅については町内の方だけでなく町外の方にも積極的にアピールしている。ただ、住宅を理由に町外へ出ていく世帯を引き留めるための手段としても考えているところであり、ご理解いただきたい。

会 長：

時間も限られているため、先に進みたい。基本構想については一旦ここまでとして次の議題に移りたい。

■議事（5）基本計画 素案について

会 長：

事前送付された資料のため、具体的な修正箇所などの意見をいただきたい。

私から数点。前回のアクションプログラムと比較すると、今後指標などの具体的なものが加わって最終的な計画になると思うが、今回の基本計画に示されている「実現したいまちの姿」や「基本目標」では前回計画と内容的に同じものが散見される。例えば46ページの「3-1 農林業の振興」ではバイオマスの活用などの話がもう少し追加されても良い。「3-2 商工業の振興」では商店街の整備や、住民の要望に多い公共スペースの確保なども追加すべき。その他あれば意見をいただきたい。

委 員：

基本計画の項目ごとにある「松田版SDGs」は前段にまとめて示すべき。47ページ「3-2 商工業の振興」に「買い物弱者対策」とあるが、一般の町民も日常的な買い物に困っている。今困っている町民をどうしていくのかについて対策が必要。また、高齢者施策では、町内に介護施設が極めて少ない。町民の雇用にも結びつく介護施設の誘致なども必要。今の松田町は買い物も介護も町外頼みで、お金は流出する一方となっている。町内で循環する仕組みがほしい。何より、今回の計画では「生活維持」はあるが「生活向上」の視点がないのが問題だと思う。

会 長：

各部署の職員の方はよく意見を聞いて反映させていただきたい。

48ページ「4. 持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち」の体系について、ごみ処理対策は2番目ではなくもっと後ろではないか。カテゴリーを考え順番を組み直すべき。工夫をお願いしたい。49ページ「4-3 新松田駅・松田駅周辺の整備」については＜参考資料3＞座談会資料で具体的なものが示されているのにそれがここには反映されていない。是非反映をさせてほしい。50ページの町営住宅についても同様である。

副 会 長：

数値の目標を踏まえた方針とすべき。例えば町営住宅が完成したときに何人の人口増を見込めるのか、そういうことも議論の対象にならないといけない。

会 長：

ご意見のとおり、数値目標は大事である。ただ、それはアクションプログラムの中で細かくやる部分で、この基本計画はその1つ前の段階である。

委 員：

44 ページの「質の高い学びで次代の子どもを育むまち」は、タイトルと内容がかみ合っていない。子どもの教育について充実した内容を期待したが、生涯学習が中心で残念に感じた。

教 育 長：

学校教育や生涯学習を含めた、広く「人づくり」という観点であるが、意見を踏まえ内容を検討したい。

委 員：

47 ページ「3-3 観光の振興」について、ロウバイまつりや桜まつり、大名行列などイベントの記述が中心となっているが、イベントも大事だが年間を通じた観光施策が必要。大井町では県の主導で「未病バレー」として進めている。松田でも富士山の景観を活かして子どもの館辺りに未病の郷のような計画を立てれば集客につながるのではないかと。

観光経済課長：

今はイベントに特化した書き方となっているが、観光客を呼び込む施策として具体的にはアクションプログラムで反映していきたい。

会 長：

51 ページ「4-8 生活排水施設整備」では合併処理浄化槽の普及についても言及してほしい。

環境上下水道課長：

合併処理浄化槽についてはアクションプログラムの中に記載していきたい。

先ほど古舘会長からご指摘があった再生可能エネルギーについては 52 ページの「5-1 自然環境の保全」で記載している。

会 長：

「5-1 自然環境の保全」のなかで再生可能エネルギーを語るのは少々違和感がある。

副 町 長：

「4-8 生活排水施設整備」の事業目標では「公共下水道整備計画に基づき」となっており寄地域が含まれないため、寄地域を含めた内容となるよう追加し、修正したい。

委 員：

「5-6 防災対策」と「5-7 防犯対策」は、実現したまちの姿や基本目標が町民主体の自主防災活動のことから始まっており、役割を町民に押しつけているように感じるので表現等を検討してほしい。

総務課長：

防災、防犯ともに行政が主体となって牽引すべきものであり、行政と町民、それぞれに役割があるので、分かりやすい表現に工夫していく。

委員：

数年前、防災ボランティアリーダー養成講座に参加させていただいた。その後、自治会に自主防災組織をつくるようお願いしたが、組長に拒否された。住民の防災に対する意識が低い。少しずつ浸透させようと努力はしているが、町として町民向け研修会などの機会を増やしてほしい。

総務課長：

防災ボランティアリーダー養成のための研修会のほか、最近は防災に関する講演会なども行っている。現状をしっかりと把握した中で、こちらの表現についても、工夫をしていきたい。

委員：

アクションプログラムで検討する項目に対する意見も多々でており、ここで基本計画までを固定するのではなく、今後のアクションプログラムの検討によって表現を変えるなど柔軟に対応してもよいのではないか。

事務局：

基本構想、基本計画については議会に承認を受ける必要があるため、実施計画であるアクションプログラムを受けて再修正するということが難しい。そのため、表現についてはある程度含みを持たせた包括的な書き方とすることで了解いただきたい。

委員：

第5次計画にあった「定住促進プロジェクト」は、第6次計画ではどういう位置づけになるのか。

事務局：

いま庁内では、実施計画の中身の検討を各課で進めている。その内容が出そろった段階で継続性に配慮しながらとりまとめを進めていきたい。ここは従来のまちづくり戦略として「定住化」のままで行くのか、今回テーマ別に定めている3つの観点から別枠をつくるのかを検討中のためまだはっきりとは回答できないが、「定住促進プロジェクト」が無くなるということではない。

会長：

町民文化センターのボルダリング施設について、複合拠点施設の視点が抜けているが、こちらについても記載が必要ではないか。

教育課長：

「施設と機会」という表現で示しているが、表現については再度検討したい。

会長：

そろそろ時間となった。パブリックコメント前にどうしても改めたい箇所などあれば数日中に事務局に提出してほしい。

事務局：

メールやFAX、電話でも構わないのでよろしくお願ひしたい。

■その他

事務局：

参考資料4のスケジュールをごらんいただきたい。次回第4回審議会は11月中旬に設定したい。配布している候補日について、都合をお知らせいただきたい。

次回会議までの流れとして、本日の議論を受け資料の修正を行う。このあとパブリックコメントを10月中旬から3週間実施する。委員には修正資料を送付するが、同じ内容でパブリックコメント資料とすることをご了承願いたい。パブリックコメントでいただいた意見を踏まえた修正案を次回審議会にて検討し、12月議会に基本構想・基本計画を提案する。